



良食味品種 ‘つや姫’ の本県早期栽培への適応性



‘つや姫’の玄米



‘コシヒカリ’の玄米

表 つや姫とコシヒカリの特性比較 (2010)

品種名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	倒伏 程度 (0-5)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	収量構成要素				精玄 米重 (kg/10a)	タンパク 含有率 (%)	アミロース 含有率 (%)	白未熟 粒割合 (%)	外観 品質 (1-9)
						穂数 (本/㎡)	1穂 粒数 (粒)	登熟 歩合 (%)	玄米 千粒重 (g)					
つや姫	7/12	8/14	0.7	72.4	17.4	384	66	72.3	22.6	465	6.67	13.28	15.1	4.7
コシヒカリ	7/10	8/13	1.1	84.0	18.3	410	62	76.4	22.9	512	6.47	14.06	18.5	5.0

注) 奨励品種決定調査(農技センター内)および同現地調査(県内6試験地)の平均値を示す(1穂粒数、登熟歩合は農技センターの値)。7試験区の移植期は2010年4月5～17日、窒素施肥量は1.0～9.0kg/10a、栽植密度は15.2～22.2株/㎡。玄米千粒重、精玄米重は粒厚1.8mm以上の玄米を対象とした水分15%換算値。タンパク質含有率、アミロース含有率および白未熟粒割合は、玄米を用いたInfraAlyzer500、Autoanalyzer IIおよびサタケ穀粒判別器での測定値。倒伏程度は数値が小さいほど倒伏に強いことを示す。外観品質は1～3が検査等級1等、4～6が同2等、7～8が同3等、9が規格外に相当(JA南国市検査員による)。

高知県では、夏季の高温による品質劣化が著しい‘コシヒカリ’にかわる高温登熟性に優れる良食味品種が求められています。

山形県で育成された‘つや姫’はご飯の粘り、旨み、表面の弾力性および光沢が優れる極良食味品種として市場で高い評価を得ているとともに、高温登熟性にも優れると評価されています。そこで、‘つや姫’の本県早期栽培への適応性を検討しました。

4月上中旬に移植した場合の出穂期は7月12日(奨励品種決定調査7試験地の平均値、以下同じ)、成熟期は8月14日となり、早晚性は‘コシヒカリ’とほぼ同じでした。‘コシヒカリ’に比べてアミロース含有率が約1%低く、ご飯は粘りに富んでいました。また、稈長は10cm以上短く、耐倒伏性に優

れる特性があることが分かりました。

しかし、1穂粒数を除く収量構成要素は‘コシヒカリ’を下回ったことから、収量は‘コシヒカリ’より低くなりました。また、外観品質は‘コシヒカリ’とほぼ同等で、現在問題となっている白未熟粒も同程度に発生しました。

以上のように、‘つや姫’の「良食味」という特性は高く評価されたものの、早期栽培では収量性や品質は十分とは言えませんでした。収量性と高温登熟性を再検討するため、‘つや姫’は本年度も奨励品種決定調査に供試しており、複数年のデータをもとに本県での有望性を評価したいと考えています。

(水田作物担当 高田 聖 088-863-4916)